

金丸分校（嶺小学校）開校

明治二十六年以来赤城山中に住み血と汗を持って、先人達が二十年近く開墾をしまいにりました。が、赤城山御料地を不存地として、国が大正十四年十二月十八日社団法人赤城山興業組合に一括払下げとなりました。払下げになる前に地元有力者をお願いし何回も懇願しましたが、はねつけられました。この時開墾者に親身に相談に乗ってくれた地元名士の鈴木留太郎氏がおりました。鈴木氏は由々しき社会問題だとして帝室林野監理局長に事情を訴え開墾した土地は開墾者に払下げを数十回交渉してくれました。組合からまたがりししていた開墾者九十三名は払下げを目的に赤城山興業組合と協議し協議書に

調印しましたが、熟慮の末不利になると思い止むなき宮内省を相手に前橋地方裁判所に訴訟提起しました。その後四年間係争中でしたが、前橋地方裁判所裁判官が間に入り払下げについて和解が進み赤城山興業組合に控除額を差し引いた二万三千三百六十四円を支払うことで覚書をかわし、各々の開墾者名義で登記となりました。当時の開墾者の名前が現東金丸町の赤城山開墾碑に刻まれています。



赤城山開墾碑

その後終戦となり復員軍人、海外引揚者、職を失った人で混沌としておりました。昭和二十一年一月自作農特別措置法に基づき地区の二男三男に呼びかけ、興農の意気を結集して就農組合を設立しました。その役員は法務局において開墾の一筆の調査を行い、県開拓課や関係機関へ交渉を続けました。昭和二十四年六月十日反別六十二町二反歩の売り渡しが決定されました。こうして就農人口と共に子供達が増えました。嶺小学校へは往復十二キロメートルもあり子供の足では大変でありました。特に、雨や雪の日には着る物、履く物など良い物がなかったため、欠席が多くなりました。当時村会議員の書上守一氏が粉骨碎身のご努力を頂き、幸いにして県より十四万円の補助金がおることとなり、芳賀村でも分校を

作ることを許可しました。校舎づくりや校庭の整備も金丸の人たちでやりました。昭和二十四年一月八日から昭和四十四年三月まで二十年間に渡り複式学級で授業が行われました。当初は二十八人でしたが、多い時は八十人近くに達しました。戦後の開拓により増加した子供たちの学び舎となりました。

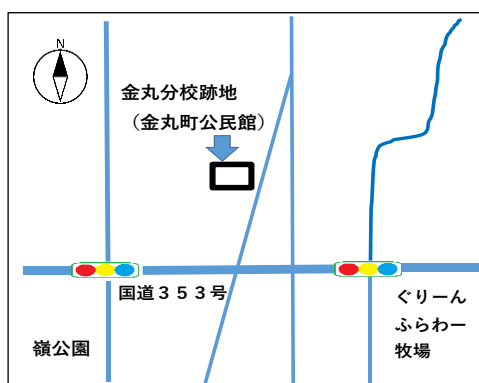


金丸分校

昭和四十四年金丸地区に近い嶺町（請地）に新築され開校となりました。今後時代の変遷とともに関係法令を緩和していただき、土地利用が進み人口が増え以前のにぎわいが戻ることを願います。

生涯学習奨励員

宮内 悟



位置図

3月の主な行事予定

3月17日(水)芳賀公民館運営推進委員会

(芳賀公民館)

